

# 『ぶらじる丸・お別れ会』 平成 8年 1月20日

## お別れ会のいきさつ

「鳥羽ぶらじる丸」が、平成8年1月30日をもって、閉館される新聞記事を知った一会員からあまりにも残念、今一度「ぶらじる丸」に会いたい、そして弓場キャプテンとごいっしょにお別れをしたいとの声があり、「航海クラブ」及び「名古屋港友の会」会員に呼びかけ、この度、「お別れ会」を行うこととなりました。

その後、このことが同じ思いを抱く方々に拡がり、このような盛大な「お別れ会」となった次第です。

## 「ぶらじる丸」の沿革

昭和29年(1954)7月10日、新三菱重工神戸造船所で完工。

総トン数10,216.6トン、長さ145m、幅19.6m、主機関9,000馬力、速力20.3ノット。

客室設備、1等12名、2等68名、3等902名。

昭和29年7月末神戸発ブラジル移住者603名、その他293名を乗せ、処女航海の途についた。

昭和31年7月2日第1回ドミニカ移住者185名を乗せ横浜出港。

昭和32年5月4日第1回ボリビヤ移住者167名を乗せ横浜出港。

就航以来日本と南米(約45日間)を結ぶ移住客船として多くの人々の夢を乗せて活躍。

20年間に運んだ移住者約16,000名、総客数約67,000名に及ぶ。

移住者年々減少の一路をたどり、経営の重圧となった、たまたま運輸省から移住船を分離し、新会社に譲渡して経理内容を改善するよう勧告があったので、昭和38年2月28日、日本移住船会社(後の商船三井客船)を設立(保有管理会社)、同年9月30日、ぶらじる丸他4隻(あるせんちな丸、さんとす丸、あふりか丸、あめりか丸)を譲渡、大阪商船が採用船。以来東航南米線に就航。

39年4月同社は、集約に参加して、大阪商船三井船舶の系列会社となった。

昭和48年9月「日中友好三重県青年の船」として中国訪問を最後にその大役を果し、装いも新たに鳥羽湾に浮かぶ夢とロマンを届ける船(鳥羽ぶらじる丸観光株式会社)として生まれ変わり今日に至った。

### 東航南米線寄港地

往航:神戸、名古屋、横浜、ロサンゼルス、クリストバル、カルタヘナ、キュラサオ、ラガイラ、ベレン、レシフェ(29年から)リオデジャネイロ、サントス、モンテビデオ、ブエノスアイレス。

復航:リオグランデ(29年から)サントス、リオデジャネイロ、イレウス、キュラサオ、クリストバル、ロサンゼルス、ホノルル(昭和33年8月から)横浜、四日市、名古屋、大阪、神戸。